

<b>〔科目名〕</b> 応用ミクロ経済学	<b>〔単位数〕</b> 4 単位	<b>〔科目区分〕</b> 専門科目 基幹科目
<b>〔担当者〕</b> 黄 年宏	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 講義時にお知らせします <b>場所:</b> 524 室	<b>〔授業の方法〕</b> 講義

**〔科目の概要〕**

本授業では、「なぜ教育は早期に投資すべきなのか」「なぜ認知能力のみならず非認知能力も重要なのか」「なぜ最低賃金の引き上げが雇用の影響につながるのか」「なぜ『50%で 4 倍』よりも『100%で 2 倍』を好むのか。」「なぜ不公平な利益よりも公平な損失が選ばれるのか」などの現実問題を取り上げます。これらの問題に対して、経済数学の分析手法およびミクロ経済学の理論モデル(CES 生産関数、スキルの交差生産性、企業の利潤最大化行動、プロスペクト理論、不平等回避モデルなど)を用い、個人・家計・企業といったミクロ経済主体が社会現象にどのように反応するかを分析することを目的とします。さらに、理論分析にとどまらず、日本の経済的背景や国際比較も取り上げ、現実の問題意識を深めて討論します。有名な学術論文を通じて、実際の経済現象や政策の効果についても検討し、理論と現実の関係を理解することを目指します。知識理解や分析力といった認知能力に加え、経済問題への好奇心や多角的な視点などの非認知能力も養います。また、本授業では応用問題にとどまらず、スルツキー分解、効用関数・生産関数の性質、消費者・生産者の行動などの演習問題を扱い、数理的分析を通じて理論理解を深めます。

**〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕**

政策やニュースの「因果と効果」を見抜く批判的思考力:「最低賃金を上げれば生活が豊かになる」という主張に対し、企業の利潤最大化行動を考慮するとどのような副作用(雇用減少など)が起こりうるか。感情論ではなく、数理モデルを用いて複数の波及効果を予測・検証する力を養います。これは、ビジネスにおける戦略立案や、公務員・コンサルタントとして政策評価を行う際の基礎力となります。

「人間のリアルな行動原理」を読み解く洞察力:なぜ人は将来のためになると分かっているにもかかわらず勉強を先延ばしにするのか?なぜ自らの財産を支払ってまで他者を罰する行動を取るのか?伝統的なモデル「合理的な経済人」だけでなく、行動経済学的な視点(時間選好・社会選好)を取り入れることで、一見非合理に見える人間の行動メカニズムを論理的に理解できるようになります。これは、マーケティングや組織マネジメントにおいても強力な武器となります。

**〔科目の到達目標〕**

経済数学やミクロ経済学は、現実の問題から離れた理論を追求する学問ではなく、むしろ現実の問題に焦点を当てて理解するための重要な分析手法である。本授業では、学生が自らこれらの手法を用いて経済に関する現実の諸問題を解明することを目指します。さらに、公共政策、社会問題、個人価値観など、時事ネタや身近な事例を題材としながら、学生が自らを取り巻く経済の諸問題を、理論と数理的手法に基づいて統一的に理解・分析できるようになることを到達目標とします。

**〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕**

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○					○	○

**〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕**

本授業では、学生からのフィードバックを重視し、授業内容の改善に努めます。以下の点を中心に、「アンケート結果」に基づいて改善・工夫を行います。

授業の難易度の調整: 学生アンケートを通じて、授業の難易度についての意見を収集し、理解度に応じて内容の調整を行います。具体的には、基礎的な概念や理論の説明を増やすことで、初学者にも理解しやすい授業

<p>を目指します。また、進度が速すぎると感じる学生が多い場合は、復習の時間を設け、理解を深める機会を提供します。</p> <p>学生が学びたい内容の反映:学生アンケートを通じて、授業で取り上げてほしいトピックや関心のあるテーマを把握し、授業内容に反映します。例えば、特定の経済政策の評価や最新の経済動向に関するディスカッションを取り入れることで、学生の興味を引き、主体的な学びを促します。</p>	
<p><b>【教科書】</b> 授業は配布するレジュメに沿って進行します。</p>	
<p><b>【指定図書】</b> ハル・R・ヴァリアン著 佐藤隆三監訳『入門ミクロ経済 [原著第9版]』勁草書房、2015年。</p>	
<p><b>【参考書】</b> Becker, G. (1964). Human Capital: A Theoretical and Empirical Analysis with Special Reference to Education, First Edition Becker, G. (1968). Crime and punishment: An economic approach. <i>Journal of political economy</i>, 76(2), 169-217. Cunha, F., Heckman, J. J., &amp; Schennach, S. M. (2010). Estimating the technology of cognitive and noncognitive skill formation. <i>Econometrica</i>, 78(3), 883-931. Fehr, E., &amp; Schmidt, K. M. (1999). A theory of fairness, competition, and cooperation. <i>The quarterly journal of economics</i>, 114(3), 817-868. Heckman, J. J., Stixrud, J., &amp; Urzua, S. (2006). The effects of cognitive and noncognitive abilities on labor market outcomes and social behavior. <i>Journal of Labor economics</i>, 24(3), 411-482. Mincer, J. (1974). Schooling, experience, and earnings. <i>Human behavior &amp; social institutions</i> no. 2. Tversky, A., &amp; Kahneman, D. (1992). Advances in prospect theory: Cumulative representation of uncertainty. <i>Journal of Risk and uncertainty</i>, 5(4), 297-323. など</p>	
<p><b>【前提科目】</b> 本授業は、前提知識がなくても努力次第で合格できるように設計しています。ただし、より高い成績を目指す場合には、経済数学やミクロ経済学の知識があることを推奨します。</p>	
<p><b>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)</b> 授業中に提示した課題 30%、小テスト 35%、期末団体発表または期末レポート 35%の割合により、総合的に成績を評価します。</p>	
<p><b>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</b> 特になし</p>	
<p><b>【実務経歴】</b> 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:ガイダンス、応用ミクロ経済学の概要について説明します 授業の理解度によっては、スケジュールを変更することもあります</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):応用ミクロ経済学のための数学 内 容:ラグランジュ乗数法・供給関数の導出や費用最小化を扱う際に積分の考え方 教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):弾力性、効用関数と効用最大化 内 容:需要曲線を導くことと、その性質を考えるために行われます 教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 需要関数の導出</p> <p>内 容: 所得消費曲線・価格消費曲線・CES 型効用関数の分析</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): スルツキー分解の考え方と各種関数のまとめ</p> <p>内 容: 消費者行動の各種関数のまとめ効用関数・需要関数・間接効用関数・補償需要関数・支出関数</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): スルツキー方程式、交換経済</p> <p>内 容: スルツキー方程式・財の交換と最適化行動</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 生産者の行動(1)</p> <p>内 容: 完全競争市場における生産者の利潤最大化行動・生産関数と生産要素を考慮した利潤最大化行動</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 生産者の行動(2)</p> <p>内 容: 等産出量曲線・利潤最大化行動と費用最小化行動</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 市場均衡(1)</p> <p>内 容: 市場均衡と余剰分析・不完全競争(独占)・費用逡減産業(自然独占)</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 市場均衡(2)</p> <p>内 容: 外部経済・公共財・生産者行動再考・公共財・外部効果</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): まとめ</p> <p>内 容: ここまでの授業内容のまとめを行います</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 小テスト</p> <p>内 容: 授業内容の理解度を測る中間試験を行います</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 人力資本論</p> <p>内 容: Becker の人力資本論や Mincer 所得方程式について説明します</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育経済学(1)</p> <p>内 容: なぜ大学に進学するのかについて教育年数の決定モデルから説明します</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育経済学(2)</p> <p>内 容: 日本の教育について世界比較・地域比較・男女比較</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか): 教育経済学(3)</p> <p>内 容: なぜ教育は早期に投資すべきなのか、なぜ認知能力のみならず非認知能力も重要なのかについて Heckman のモデルから説明します</p> <p>教科書・指定図書: 教員作成の資料を使用します</p>

第 17 回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育経済学(4)</p> <p>内 容:大卒のシグナリング効果、教育の収益率、留年による損失、就学前教育の重要性などに関する学術論文を紹介します</p> <p>教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>
第 18 回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会安全の経済分析(1)</p> <p>内 容:なぜ情報の非対称性を利用する社会的問題が年々増加しているのかについて、Becker や Ehrlich などのモデルから説明します</p> <p>教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>
第 19 回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会安全の経済分析(2)</p> <p>内 容:日本の社会安全指標について諸指標の動向・世界比較・問題意識</p> <p>教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>
第 20 回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会安全の経済分析(3)</p> <p>内 容:社会的コストを最小化するための最適な執行について、厳罰性、確実性、外部性などに関する学術論文を紹介します</p> <p>教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>
第 21 回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働経済学(1)</p> <p>内 容:なぜ最低賃金の上昇が雇用の影響につながるのかについて、競争的労働市場モデル・買い手独占労働市場モデルから説明します</p> <p>教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>
第 22 回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働経済学(2)</p> <p>内 容:日本の労働条件・労働環境・労働現状・世界比較について紹介します</p> <p>教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>
第 23 回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働経済学(3)</p> <p>内 容:最低賃金が雇用に与える影響に関する学術論文を紹介します</p> <p>教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>
第 24 回	<p>テーマ(何を学ぶか):行動経済学(1)</p> <p>内 容:なぜ 4 倍の金額を半分の確率で得るよりも 2 倍の金額を確実に得ることが魅力的なのか、なぜ近い将来と遠い将来では選好が逆転するのかについて、プロスペクト理論や準双曲割引から説明します</p> <p>教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>
第 25 回	<p>テーマ(何を学ぶか):行動経済学(2)</p> <p>内 容:プロスペクト理論やナッジ理論に関する現実の事例と学術論文を紹介します</p> <p>教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>
第 26 回	<p>テーマ(何を学ぶか):行動経済学(3)</p> <p>内 容:時間選好や自己制御に関する現実の事例と学術論文を紹介します</p> <p>教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>
第 27 回	<p>テーマ(何を学ぶか):ゲーム理論(1)</p> <p>内 容:なぜ不公平な利益よりも公平な損失が選ばれるのかについて、不平等回避モデルから説明します</p> <p>教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します</p>

第 28 回	テーマ(何を学ぶか):ゲーム理論(2) 内 容:最後通牒ゲームに関する現実の事例と学術論文を紹介します 教科書・指定図書:教員作成の資料を使用します
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):期末団体発表(1) 内 容:研究テーマ・仮説・文献レビューなどを発表
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):期末団体発表(2) 内 容:研究テーマ・仮説・文献レビューなどを発表